

これまでの協議経過



| 時 期 | 内 容 |
|------------|---|
| 令和5年11月5日 | 松葉小学校区協議会に対し、旧城南中学校跡地活用の事例紹介を行った上で、今後の松葉小学校の利活用についての対話を行う。 |
| 令和5年11月13日 | 茨城県から松葉小学校敷地に保健所を移転したい旨の要望がある。 |
| 令和6年2月28日 | 市議会全員協議会に上記を報告し、松葉小学校敷地に保健所を移転する方向で地域住民との対話を行うことので了承を得る。 |
| 令和6年3月10日 | 松葉小学校区協議会に対して、茨城県が閉校後の松葉小学校への保健所移転を検討しており、市としてもその方向で検討していく旨を説明。 |
| 令和6年9月28日 | 松葉小学校跡地活用についての住民説明会 |
| 令和6年10月3日 | 松葉小学校跡地の一部への保健所移転が決定 |

●その他

- ✓ 松葉小学校区協議会との跡地活用に係る協議（令和6年6月・7月・9月・10月・11月・12月）
- ✓ 茨城県との保健所移転に関する調整
- ✓ 市内部での検討・協議
- ✓ 市議会議員向けの説明
- ✓ 附属機関（公共施設等マネジメント推進委員会）での審議

跡地活用全般

- 跡地活用の全体スケジュールを知りたい。
- 現在の街並みはURが区画整理を行い作り上げたものである。まちづくりのコンセプトを考慮した跡地活用を行ってほしい。
- 小学校は教育施設としての機能だけではない。住民は町全体の機能を考えて購入しているので、その機能が落ちることのないように検討してほしい。
- 松葉地区の課題は高齢化ではあるが、高齢者を対象とした活用に重点を置くと、地域からさらに若者が減ってしまう。
- 避難所等の防災対策が損なわれることがないようにしてほしい。
- 松葉小学校のグラウンドは、夏祭りの会場として地域住民が利用してきた。
- 松葉小学校と長山小学校が閉校となるが、距離が近いため同時期に同じようなことをやっては上手くいかない。
- 元気サロン松葉館が今後どのようになるか気になる。
- 跡地活用を検討していくチームを作った方がよいのではないか。
- 短期的・長期的なプランに分けて考えていく必要があるのではないか。
- 住宅地の空き家を流動化したい。種地として使えないか。
- 住民は基本的に素人である。市の方で「このような活用でいかがですか」という形にした方がスムーズに議論が進むと思う。
- 夜間開放や土日に体育館やグラウンドを使用している団体もいるため、その受け皿も考える必要があるのではないか。

保健所

- 保健所がどのようなものかが分からない。なぜ松葉小学校なのか。
- 交通量に影響がないか、大型車両の出入りがあるか知りたい。
- 保健所移転の件は初めて聞いた話である。もっと丁寧に進めてほしい。
- 感染症や難病に苦しむ方にとって、保健所は大切な施設である。移転に賛成。
- 保健所が住民にどのようなメリットをもたらすのか。

活用提案

- 高齢福祉施設も悪くはないが、子育て支援施設や児童館などの方が好ましい。
- 医療モールを誘致し、さらにサービス付き高齢者住宅を併設した福祉医療ゾーンのような形も良いのではないか。
- 既存施設の大規模改修を行って民間活用することも考えられるのではないか。
- コミュニティセンターと公園を一体で活用してはどうか。
- 竪穴式住居や松葉小学校の歴史を、何らかの形で伝承してほしい。
- 松葉地区は緑豊かなまち。樹木はできるだけ残してほしい。
- 跡地活用を通じて避難所の環境改善を図ってほしい。
- 地域福祉や防災の観点から、地域の拠点として整備してほしい。
- 保健所だけでなく、他の公共施設を集約することも検討してはどうか。



保健所ってどんなところ？

保健所は、地域の医療機関や市町村保健センターなどと連携し、住民の健康を守るための業務を行っています。保健所では、難病や結核・感染症対策、薬事・食品衛生に関する監視指導など専門性の高い業務を行っています。保健所の所長は、原則として医師であり、薬剤師、獣医師、保健師、栄養士などが配置されています。

例) 感染症の拡大防止、健康に関する情報の収集・分析、市町村への助言、食品販売店などの許可や監視指導、理美容所・公衆浴場などの営業許可、病院・医師会・消防署と調整した地域医療体制の構築、災害時の統括 など

保健所と保健センターの違い

保健所が広域的・専門的な保健サービスを行う施設であるのに対し、保健センターは地域住民に身近な保健サービスを直接行う施設です。どちらも地域保健法において定義されています。



北竜台市街地の検討

目的・概要

高齢化が進む北竜台市街地(松葉・長山)を持続可能な地域社会に再構築するため、**若者・子育て世代の転入・定住促進**に向けた、**今後の施策の方向性**をまとめる

検討の視点

- ① 現状と課題を踏まえ、北竜台市街地全体を俯瞰
- ② 庁内関係部署との調整・連携 ▶ **定住促進ワーキングチームの設置**
- ③ 松葉・長山地区の居住者・関係者との意見交換

ワーキングメンバー

企画課、管財課、福祉総務課、こども家庭課、健康増進課、地域づくり推進課、都市計画課、教育総務課、文化・生涯学習課に加え、**まちの魅力創造課**が事務局

▶ **10**課で構成（課長補佐または**主査**クラス級の職員）

今後の施策の方向性

北竜台市街地の現状分析、居住者・関係者との意見交換、大学生世代へのアンケート調査等を踏まえ、定住促進ワーキングチームにおいて3つの施策をまとめた。



多世代共生の まちづくり

多様な世代・地区内の交流、
学校と地域の連携 など



子育て・教育環 境の充実

こどもの居場所づくり、
北竜台公園の活用 など



既存資産(ストッ ク)の有効活用

空家・空き地の利活用、
小学校跡地活用 など

＼ 跡地活用に求めること ／

定住・交流人口

定住・交流人口の増加、若者・子育て世代の流入促進（空き家の抑制・利活用）

健康長寿社会の実現

スポーツや健康を通じて、生きがいをもって健康に暮らし続けるための仕掛け

若者・子育て支援

若者が活躍するまち、子育てのしやすいまち。世代間交流機会の創出。

地域活動拠点

自然に市民が集い、語り合う場所。まちの中央にある利点を活かしたターミナルのような役割

防災機能

引き続き市民が安全・安心に暮らし続けるための防災機能を確保

上記に記載したものは一例です。お住まいの皆さまの意向や対話を行い、跡地活用を通じて、“住み続けたい・住みたくなる” まちを目指します。

松葉地区の現状、地域との対話、茨城県の意向、市の跡地活用方針等を総合的に勘案し、それらを“まちのにぎわい”や“地域課題の解決”につなげるため、活用のポイントを以下にまとめました。

活用ポイント

- 竜ヶ崎保健所機能を加えた形で、松葉小学校の跡地活用を行う

事業スケジュールが速いため先行着手（R9から工事着手。R11.4供用開始予定）

- 元気サロン松葉館機能の受け皿（健康長寿社会の促進）
- 安心して暮らし続けるための地域の防災拠点
- 地域コミュニティ活動施設の利便性向上
- 世代間交流機会の創出
- 夏祭り会場

元気サロン松葉館機能の継承、防災拠点機能の強化、世代間交流の創出を目指し、現在よりも規模の大きいコミュニティセンターを新設。また、隣接する公園と一体整備とすることで、子どもの遊び場や夏祭り会場として地域に親しまれる空間を目指す。

- 若者・子育て世代にとって魅力的な場所
- 生活利便性の向上
- 空き家の流動化

民間事業者等のノウハウを活かし、住みやすいまち、若者・子育て世代に選ばれるまちへの転換を図る。店舗、医療、住宅等、どのようなコンテンツが松葉地区の将来に必要なかを行政・住民で練り上げるとともに、民間事業者の市場調査も実施。

コミュニティセンターの防災機能を強化し、元気サロン機能を統合。現在よりも規模が大きい施設を新設。

コミュニティセンター・公園・遊歩道を一体で再整備することで、様々な世代が自然に集う空間を創出。（公園の位置付けは変わらず）

松葉第三
児童公園
約3,300㎡

コミュニティセンター
約3,000㎡

遊歩道を再整備することで、通学路の安全確保や夏祭り会場としての活用等も視野に検討。

新規活用ゾーン
約21,500㎡

緑豊かな住宅地という特性を尊重しつつ、にぎわいの創出、生活利便性の向上を図り、まちの価値をさらに高める。

若者・子育て世代の定住につながる、魅力的な提案を民間事業者に求めていく（詳細はこれからの協議）。

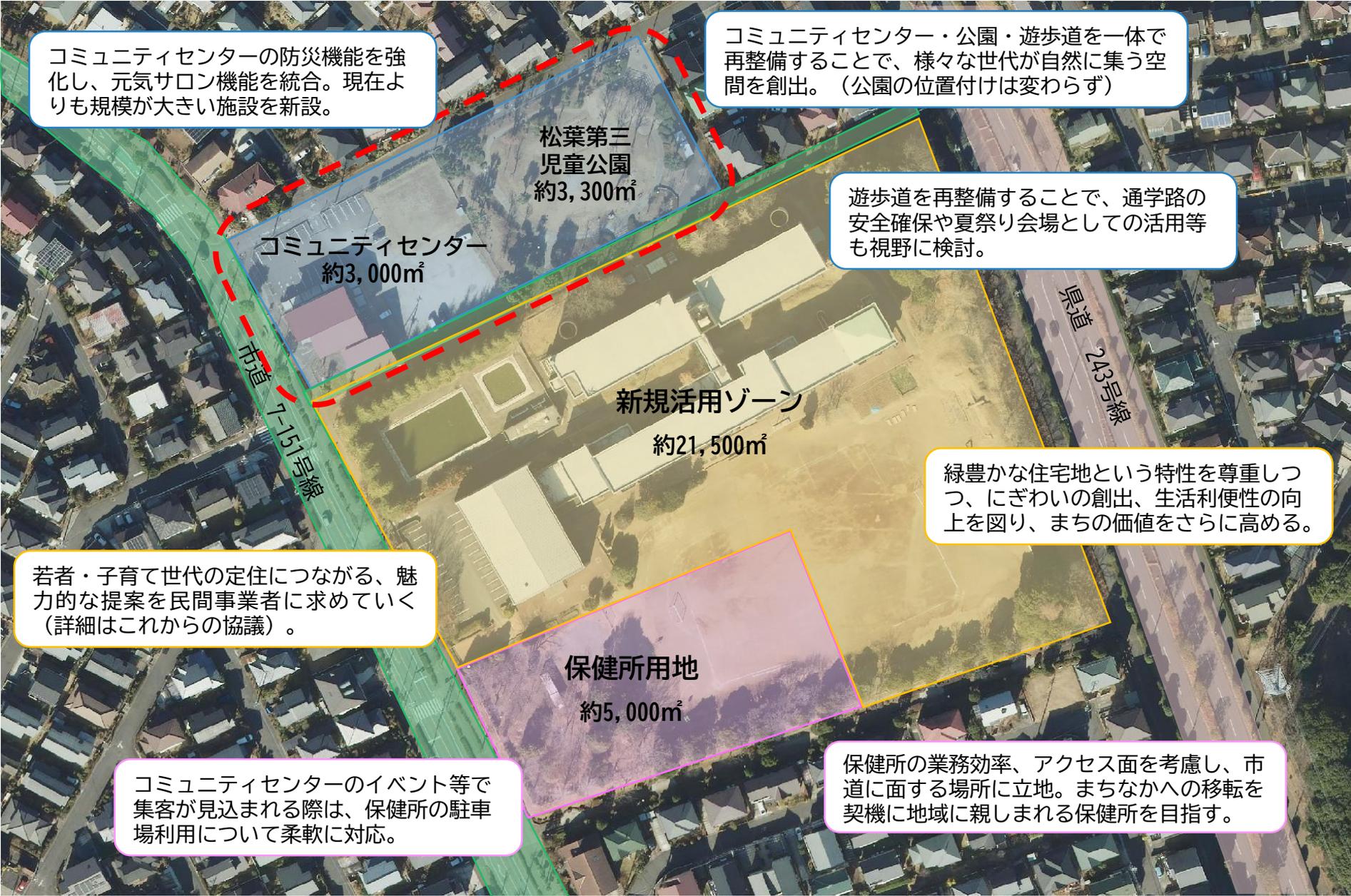
保健所用地
約5,000㎡

コミュニティセンターのイベント等で集客が見込まれる際は、保健所の駐車場利用について柔軟に対応。

保健所の業務効率、アクセス面を考慮し、市道に面する場所に立地。まちなかへの移転を契機に地域に親しまれる保健所を目指す。

市道 7-151号線

県道 243号線



松葉小学校は地域の中心に位置し、長らく地域の皆さまに愛されてきました。

令和9年3月、松葉小学校は46年の歴史に幕を閉じることになっても、この場所は皆さまにとって大切な場所であり続けるはずです。

市では、顕著な少子高齢化や住宅事情から、松葉地区・長山地区の現状に課題意識を持ち、政策的な取組みを検討しているところです。

市では様々なデータを収集分析していますが、将来のまちの姿を行政の一存で描くことはできません。

地域のお住まいの皆さまの声を届けていただき、ともに松葉地区が“住み続けたい・住みたくなる”まちを目指しましょう！